

今も、世界中で新型コロナウイルスが大流行しています。その中で私は、次の三つのことを通して、思い通りにいかないときこそ、出来ることを見つけて、工夫し、それを楽しむことの大切さを学びました。

1つ目は、私が小学5年生の3月に緊急事態宣言が発令され約3か月間の一斉休校になったときのことです。友達と会えない、給食を食べることができない、勉強はどうなるのか、自分や家族は感染しないのかなど、たくさんの不安や制限の中での家中心の生活が始まりました。

休校初日、私は時間がたっぷりあったのでお菓子作りに挑戦してみました。そして、せっかくなら記録しておこうと自主学习ノートに写真を貼って、レシピを書きました。おいしく出来て家族にも喜んでもらったので、次の日からフルーツポンチやアップルパイなどを作りました。次の週からは、お菓子作りだけではなくてお昼ご飯も作ってみようと思い、オムライスやたらこチャーハンなどを家族の分も作りました。私は、お菓子作りや料理が好きなので楽しく作れたり、時々する失敗の原因を考えるのも面白かったりして、「明日は何作ろう。」と充実した毎日を送ることが出来ました。ノートを書くのは大変だったけれど、毎日続けたので、レシピが90個分までたまりました。学校が始まってからも、休日に時々ノートを見返したり、新しい料理に挑戦したりしています。たくさん料理をする中で、食べ物の栄養や栄養素の働きにも興味を持つようになりました。これまで、パティシエになりたいと思っていたけれど、それに加えて、栄養士などの栄養に関わる仕事にも魅力を感じるようになりました。今回の経験が自分の将来を考えることにもつながって良かったです。

2つ目は、私が小学6年生の10月に開催された鳥羽リンピックという運動会でのことです。ここでもいろいろな制限が出来、応援合戦では発表時間が短くなったり、応援歌が歌えなかったり、ソーシャルディスタンスを保たなくてはいけなかったりしました。考えるのが大変で下級生に教えるのも難しく思い通りにいかないこともありました。その中で、私は同じチームの6年生や先生方と意見を出し合って、制限の中でも、楽しく、面白く出来る最高の応援合戦になるように工夫しました。発表の隊形を変えて飛沫がかからないようにし、みんなで大きな声を出せるようにしたり、隊形に低学年にも分かりやすい名前を付けて、覚えやすくし、素早く動けるようにしたりしました。そうすることによって、チームのみんながどんどんやる気になっていき、まとまっているのを感じ、私はとてもうれしく思いました。コロナウイルスでいろいろな制限があるからこそ、いつも以上に熱心に考え、チームのみんなと絆を深められたので良かったし、工夫して協力することの楽しさも強く感じました。

3つ目は、県内になってしまった修学旅行を通してのことです。県外に行けなくて残念だったけれど、行ったことのない福井県の観光スポットにたくさん行くことが出来、福井県の良いところも知れて、最高の思い出になりました。家族で旅行したとき、私のおすすめのところを案内したらとても喜んでくれました。案内するためにその場所について深く学べたことも良かったです。これから、もっと福井県の魅力を学んで県外の親せきにも紹介していきたいです。

私は、このような経験を通して、自分の思い通りにいかないときこそ、出来ることを見つけて、工夫し、それを楽しむことが大切だと思いました。コロナウイルスに関するだけでなく、他のことでも自分の理想通りにいかないときがあると思います。私は、そんなとき、あきらめずに自分なりにできることを探して、工夫したいと思います。そうすると良いものが出来たり、自分の力になったり、とても楽しかったりすると思います。皆さんも、思い通りにいかないときこそ、出来ることを探して、工夫して、楽しもうとしてみませんか。ピンチをチャンスに。